

## 名古屋工業大学巴会々報



平成 18 年 5 月  
No. 40

名古屋工業大学機械工学科内 巴会本部

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町 Tel (052) 735-5049

Fax (052) 735-5442

ホームページ: <http://www.mech.nitech.ac.jp/~tomoe/index.html>

## 巻頭言

### 巴会関東支部長 張田 吉昭 (S43)



米国に SRI インターナショナルという非営利の独立研究機関がある。コンピュータ入力装置の「マウス」、インターネットの元祖「ARPANET」の開発、クレジットカードの基盤技術や衛星放送技術など独創的な技術を実用化

したことで名高い組織である。

昨年 11 月に来日した社長のカーティス・カールソン氏によると、SRI インターナショナルは、元はスタンフォード大学の一部だったが、現在は政府機関や民間企業から資金提供を受けて研究を進めているという。常に独創的な技術革新に焦点を当て、大学と企業間のギャップを埋めるユニークな組織となつたらしい。新しい商品やサービスをつくるための受託研究を進めるだけでなく、特許を供与したり、パートナー企業と（スピンアウトの）新会社をつくるなどして研究を進めている。

かれらの実用化手法としてのヒントはトヨタ自動車の故・大野耐一元副社長であるという。大野副社長の押し進めた「カイゼン」は生産技術の改革だが、着実に改革を進める手法は技術革新にも通用するというのである。すなわち、単に無駄の排除をする仕組みではなく、常に革新を続けて最善を構築するという姿勢や信念が重要だと指摘している（参考：日経産業新聞 2005 年 11 月 2 日付けより）。

なんと、SRI インターナショナルの成功の秘密は私たちの偉大なる大野耐一先輩だとは。

大野先輩が創案され推進されたトヨタ生産方式については、15 年ほど前になるうか、「トヨタシステム（トヨタ生産管理システム）」門田安弘著を読み、トヨタの生産ラ

インにおける「かんばん方式」、「多能工養成」や「自働化」などの革新的な内容を知り大変驚いた記憶がある。

先日、名古屋工業大学創立 100 周年記念出版の「大野耐一工人たちの武士道」若山滋（名工大大学院工学研究科教授）著が手元に届いた。本書によって大野先輩の学生時代やそのひととにに触れることができた。

大野先輩は母校（当時の名前は名古屋高等工業）では、あまり机の上での勉強はしなかったらしい。部活（サッカー部）と麻雀で忙しかったようだ。ただ、机の上での勉強はともかく現場主義だったという。

自分も学生時代は、同じ機械工学科で、部活（こちらは自動車部や学生自動車連盟）で忙しく、また、宝ヶ池近くの雀荘に入りびたりだったこと、さらに現在は口ひげがトレードマーク、かなり大先輩と似ているなど、ちょっとうれしくなったが、共通項はここまで。本当は偉大な先輩の爪の垢でも煎じて飲まなければならない。

さて一昨年の国立大学の独立法人化に伴って、大学は大きく変化することが望まれている。私は縁あって母校と同じく国立大学であった横浜国立大学の産学連携部門で知的財産関連のお手伝いをさせていただくなかで、特に産学連携推進の重要性を身近に感じている。

人づくり、ものづくり、未来づくりをスローガンとする母校も、例外ではないと思う。

幸い私たちの母校は、大野先輩たちからの伝統として、特にものづくりについては、むしろ他の大学に比べて優位のはずである。その強みを活かして、前述の SRI インターナショナルではないが、大学と企業のギャップを少しでも埋めるために、私たちが OB として何ができるかを皆様と共に考えていきたいと思っている。

**「名工大の MOT (技術経営) 教育  
ーテクノビジネススクールー」**

名古屋工業大学大学院 産業戦略工学専攻長  
機械工学科



中村 隆 教授

## 1. はじめに

MOT (Management of Technology : 技術経営) は、1962 年にマサチューセッツ工科大学経営大学院 (Sloan School) の研究分野として生まれ、1981 年に同大学院の修士課程に Management of Technology コースを設置したのが始まりである。MBA (Master of Business Administration: 経営学修士) の歴史は古く、日本でも定着しつつあるが、MOT は緒に着いたばかりである。経済産業省もその必要性を認識し 2003 年に「技術経営コンソーシアム」を立ち上げ、企業会員 77 機関、教育機関 69 機関 (2004 年 6 月末) を集めて、産学が連携した教育手法の開発を進めている。しかしながら MOT の教育手法は未だに確定したものとはなっておらず、手探り状態であると言わざるを得ない。

## 2. 名古屋工業大学大学院での技術経営教育

### 2.1 産業戦略工学専攻の特色

2003 年 4 月、名古屋工業大学は大学院工学研究科に産業戦略工学専攻を開設した。技術経営教育を行う独立専攻であり、学内の工学部全分野から学生が入学している。産業戦略工学専攻では専攻の英訳を MTA (Master course of Techno-business Administration) とし、テクノビジネススクールと略称している。産業戦略工学専攻の特色としては、学生定員 21 名のうち、学部卒学生 (一般在学コー

ス) と社会人 (短期在学コース) がほぼ同数で、学生と社会人が互いに刺激し合い交流を深めていることである。社会人の短期在学コースでは在学期間が 1 年以上 2 年未満に設定され、多くの社会人が 1 年間で修士号を取得している。このコースは厚生労働省の教育訓練給付制度の指定を受けているため学費の負担が少ないことも社会人にとって嬉しいことである。しかしながら主に平日の夜間と土曜日の講義と、会社での仕事を両立させつつ、修士論文に相当するリサーチペーパーを完成するのは至難であり、短期決戦と腹をくくり頑張っている。

### 2.2 産業戦略工学専攻は何をねらうか

名古屋工業大学はものづくりの集積地である中京圏の中心に位置し、5 万人を超える技術者、研究者を卒業生として輩出してきた。そのものづくりは、わが国全体でもそうであるように、「世界一のものをつくる」が新規産業創成への戦略、マーケティングにパワー不足であることは否めない。また技術財産や知的財産の保全についてもこれまで以上に力を注ぐ必要がある。そこで、技術者に「腕+α」を付けさせる教育が求められている。それでは産業戦略工学専攻ではどうしているか。技術に直結した「α (経営分野)」と「腕 (テクノロジー分野)」を同時に教育する体制とした。

### 2.3 産業戦略工学専攻のカリキュラム

カリキュラムは「産業技術経営分野 (α)」, 「コアテクノロジー分野 (腕)」, 「実習系科目 (実践)」に大別でき、それぞれの分野を均等に履修するよう計画されている。学生に人気の講義は学外講師が行う協力・連携の講座である。50 年の伝統を誇る慶應義塾大学ビジネススクール (KBS) からは 3 名の経営専門講師が来て、「技術戦略特論」, 「市場経済特論」, 「意志決定特論」の講義をお願いしている。トヨタ自動車(株)には「企業戦略特論」, ヤマザキマザック(株)には「開発戦略特論」をお願いし、各企業の

得意とする分野を講義している。また弁理士でもある現役の弁護士が経営法務特論を担当し、特許抗争の実例を交えて法務を解説している。

コアテクノロジー分野は工学系大学院の専門科目であるが、いずれの科目にも演習科目を組み合わせ、学生自身による調査、報告書作成などにより実践的な教育となっている。また実習系科目では全教員が参画し学生のスキルをブラッシュアップしている。「事例研究」(週 4 時間、前後期通年)は当専攻の技術経営教育の特色を明確にする科目であり、詳しく後述する。「プレゼンテーション」では前期に表現力の訓練からプレゼンテーション図面の構成、色合いまでを指導し、後期には学会での英語発表の訓練を行う。

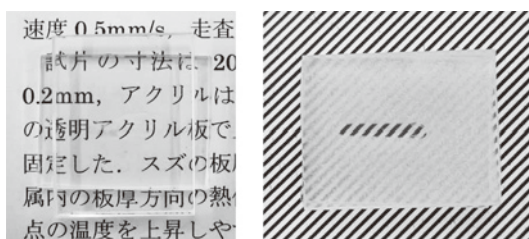


図 1 アクリル板のレーザーラップ接合

### 3. 特色ある科目「事例研究」

MBA では事業に成功した例や失敗した例を事例として分析する教育が行われている。当専攻の事例研究においても同様の事例調査を行い、また節目ふしめ外部講師の話題提供があり最新情報を採り入れている。これらの訓練の後、「要素技術の事業化研究」を実施する。これは、教員それぞれが保持する要素技術を複数提供し、少人数のグループでそれを事業化する企画案を作成する。2004 年度に実施した例を紹介する。図 1 は 2004 年度に 6 件提供された要素技術のうちの 1 つで、著者らが開発したレーザー接合技術である。接合面に物理的処理(適切な表面粗さを付けるだけであるが)を施した透明プラスチックを重ね合わせ、介在物なしにレーザー接合

する技術で、片側が透明プラスチックであれば金属との接合も可能である。これを要素技術として、建築系女子学生の社長(歯ッスル欄)以下 5 名で企画したのが「虫歯予防・歯の美白事業」であった。予想もしない方向に進んでしまったが、市場調査、資本金、資金調達から収益分岐点まで計算し、実現しそうな事業案となっている。実は、これを実現するには技術的な大きなハードルがあり(学生には言っていないので誠に申し訳ないが)、そのハードルを初めから諦めていた著者にとって、研究開発の 1 つの方向性を知る事ができ、チャンスがあればそのハードルに挑戦してみたいと思えた。これこそが、技術経営の真髄であり、本専攻がめざす「経営を見通した技術開発力の育成」を「互学互修」(妹尾<sup>1)</sup>が提唱する教育モデルで、特に先端人材育成では学び合い・教え合いが必要としている)を使い実現する工学教育手法となっている。

これらの訓練を経た学生の修士論文、リサーチペーパーを産業戦略工学専攻の全教員で審査するが、中身自体は多岐に亘るものの、工学各分野の専門的内容であっても極めて分かりやすく、優れたものになっている。

### 4. あとがき

技術経営教育において、やはり重要なのは産学官民、学生教員の交流であり、当専攻では幅広い領域のネットワークが形成されている。外部講師の講義後は、必ず学生と教員を交えた交流会、また年度中盤には一泊二日の合宿(2005 年度は事例調査の報告会と教員からの要素技術紹介が行われ、学生と教員は全員参加した)を行っている。成果は修了した学生が示してくれると期待している。

### 参考文献

- 1) 妹尾堅一郎:「互学互修」モデルの可能性～先端的専門職教育における「学び合い・教え合い」～, コンピューター&エデュケーション, Vol. 15, 柏書房(2003), 24-30

## 関 東 支 部 便 り

巴会の皆様には、日ごろ大変お世話になっています。巴会関東支部の活動を以下のとおり、ご報告致します。

### 1. 関東支部の活動

巴会関東支部は、名古屋工業会東京支部の構成メンバーとして、工業会東京支部の下記の行事に参加しています。

これら行事の企画運営には巴会関東支部幹事の方々に、ご尽力いただいております。

また、平成 18、19 年度の巴会幹事の名工会東京支部役員は、以下の予定です。

名工会東京支部	副支部長	S43	張田	吉昭
	相談役	S18	小関	健二
	相談役	S35	星野	三郎
	常任幹事	S35	東島	良治
			(ごきそサロン担当)	
	常任幹事	S47	松浦	明人
			(財務補佐担当)	

① 支部総会：毎年 11 月に開催されます。関東支部「巴会秋の集い」を兼ねています。

② ごきそサロン：3 月と 7 月の第 2 水曜日 18 時 30 分から東京駅地下街八重洲倶楽部で、名古屋工業大学 OB から様々なテーマでの興味あるお話を伺うことができます。

前回は平成 18 年 3 月 8 日（水）水口建治氏（D39）の「イスラムとイスラム地域」でした。

③ エクスカーション：毎年 1 回「日本文化遺産を巡るたび」で、関東各地の魅力溢れる名所を訪れています。昨年（平成 17 年 6 月 4 日）は地下鉄大江戸沿線の庭園めぐり（小石川後樂園、清澄庭園、浜離宮恩賜公園）でした。今年は、6 月 3 日（土）に、宝登山登り（ケーブルカーでの往復）、長瀨ライン下り、SL 機関車バイオエクスプレス乗車の魅力的なプランとなっています。

④ 囲碁（東京棋友会）：毎月第 2・第 4 土曜日の 13 時から八重洲倶楽部（ただし奇数月は八重洲囲碁サロン）で定例会、その他大会（春・秋）、連碁大会（正月）、対抗戦などを開催しています。

⑤ ゴルフ（東京ゴルフ会）：毎年 4 回定例コンペを開催しています。前回の第 186 回は、平成 18 年 3

月 28 日（火）本厚木 CC にて 8 組で開催されました。

これらの行事に関する案内は、名古屋工業会誌「ごきそ」に掲載されますので、お申込みの上ご参加下さい。

2. 平成 17 年度「巴会秋の集い」（兼名古屋工業会東京支部総会）

名古屋工業会東京支部総会は、平成 17 年 11 月 10 日（水）KKR ホテル東京にて、開催され、母校から松井学長、ものづくりテクノセンター長藤本教授（S47 修）、おもひ領域荒木教授、中西教授、名工会から市川理事長、西端常務理事をお迎え致しました。

参加者 174 名の盛会でした。巴会関東支部の会員は下記 17 名が参加し旧交を温めることが出来ました。

参加者氏名（敬称略）

小関 健二（S18）、深田 道夫（S25）、内海 安博（S26）、福岡 泰二（S30）、東島 良治（S35）、星野 三郎（S35）、野澤 滋為（S36）、松岡 達生（S37）、高島 邦彦（S37）、前田 宏三（S41）、伊藤 友雄（S43）、張田 吉昭（S43）、小野 尚純（S45）、幸節 雄二（S47）、松浦 明人（S47）、下村 和生（S48）、戸澤 宏一（S55）

3. 平成 18 年度「巴会秋の集い」（兼名古屋工業会東京支部総会）

本年度も平成 18 年 11 月 9 日（木）、東京駅近くの KKR ホテル東京（地下鉄東西線竹橋、千代田線大手町、都営地下鉄線神保町）にて開催されます。在京同窓生との交流の場や母校の最新の状況を知る良い機会でもあり、多数の皆様のご参加をお待ちしています。

4. その他

八重洲倶楽部（東京都中央区八重洲 2-1 八重洲地下街中 1 号：電話 03-3275-0801、FAX03-3275-1106：利用時間は 10 時～22 時、日曜祝日は休み）は、名古屋工業会東京支部が会員となっている会員制クラブで、受付で東京支部専用の署名簿に記入すれば、ロビーでの待ち合わせ、喫茶や娯楽室での囲碁・麻雀などが利用できます。ただし、申込者は名古屋工業会会員である必要があります。

(M43 張田 吉昭, 関東支部長)

## 関西支部便り

平成 17 年 7 月 30 日に大阪で行われました総会についてご報告申し上げます。今年度も大変有意義な総会をさせていただきました。ご講演は経済評論家の「泉和幸氏」をお願いいたしました。お待ちかねの懇親会ではなんば敦煌の中華料理を美味しくいただきました。M57 伊藤巴会本部理事様、K40 河辺工業会大阪副支部長様、同期会を兼ねてお集まりいただきました大勢の会員皆様にご協力いただきまして、お蔭さまで今年度も下記の如く盛会に無事終了いたしました。本当にありがとうございました。

### 記

- 参加者・・・27名 最高年齢者はM22の青木氏
- 支部長挨拶・・・関西支部の現状報告 \*過去7年間の総会参加状況報告 \*学校案内「データーで見る名古屋工業大学」「産業戦略工学専攻」の説明 \*本部総会報告

- 会計報告・・・M43堀内会計担当
- 会計監査報告・・・M39山本副支部長
- 工業会報告・・・k40河辺工業会大阪副支部長
- 巴会本部報告・・・M57伊藤本部理事
- 工業会入会のお祝いと工業会総会のお知らせ・・・M47安藤工業会担当幹事
- 講演会・・・講師 政治経済評論家「泉和幸氏」 演題 「日本丸の進路を吟味する」
- 記念撮影・・・今年もM22青木顧問・M28三宅顧問にお願いいたしました。
- 懇親会・・・ニュージャパン観光「敦煌」にて

以上

(S43 福竹 泰彦, 関西支部長)

## 巴会運営便り

○平成17年6月18日学内において、平成17年度巴会総会・理事会が開催され、全議案が承認されました。総会後の講演会では講師として名古屋工業大学大学院、産業戦略工学専攻長の中村隆教授より、演題「名工大の MOT(技術経営)教育ーテクノビジネススクール」について大変興味深いご講演を拝聴しました。

○平成17年9月27日理事会が開催され、17年度の活動計画、巴会収支改善策、100周年募金活動支援策、名古屋工業会活動計画と支援、OBは語る会について議論がなされました。10月には会報「ともえ」増刊号を発行し、会員の皆様に100周年募金の呼びかけを行い多くの募金をいただきました。12月16日、平成18年4月3日の両日、理事会が開催され、17年度決算案、18年度活動計画・予算案、理事交替、名簿発行状況、クラス会費納入状況、収支改善策、名古屋工業会名古屋支部

活動状況等について報告、協議がなされ、新年度総会への対応・準備を終了しました。

○平成18年3月23日母校講堂に於いて巴会主催の卒業記念パーティが開催され、塩見会長をはじめ多くの先生方並びにOBの参加で、盛大なパーティとなりました。準備に当たられた先生方に心より感謝します。

○平成17年度は16年度に引き続き、巴会が名古屋工業会名古屋支部の主担分科会として、名古屋支部各行事のお世話をし、名古屋支部の総会と見学会(犬山城・明治村見学)、新年互礼会、工場見学研修会(陸上自衛隊久駐屯基地・シャープ亀山工場見学)を開催しました。巴会会員の皆様の協力のもと、無事2年間の主担分科会の役目を終えました。お礼申し上げます。

(S45 尾針 幸夫)

**訃報** (下記の方々のご逝去を悼み、心からご冥福をお祈り致します。)

S7 山口 嘉彦 H17. 7	S19 鈴木 敬三 H17. 11. 9	S23 鈴木 幸治 H15. 8
S9 今井 直次郎 H17. 10. 29	S19 村本 康和 H17. 12. 20	S23 津田 朋輝 H13. 9
S10 伊藤 稔男 H17. 7. 8	S19 原田 俊文 H18. 1. 12	S24 瀬戸 徳三 H18. 1. 13
S11 由良 忠治	S20 大西 克己 H16. 10. 20	S24 高木 正巳 H17. 9. 4
S12 牧村 清 H16. 11. 18	S22 中道 喜三郎 H17. 9. 1	S26 水谷 弘 H16. 3. 12
S16 那須 邦治 H17. 12. 19	S23 一色 昭男 H17. 8. 5	S30 木村 照夫 H16
S16 田村 清治	S23 大橋 邦典 H17. 9	S32 早川 正彦 H17. 1. 26
S19 中村 拾雄 H17. 6. 13	S23 児崎 昭久 H12. 6	S39 本井 俊夫 H17. 9. 1
S19 豊田 直 H17. 7. 19	S23 杉山 恵一 H17. 1	

## 学 内 報 告

### ＜学生向け講演・懇談会 「“OBは語る”会」報告＞

巴会主催の第6回「OBは語る」会が、平成17年11月2日(水)、機械工学科(3号館)M3教室にて参加学生(院生も含む)40名の盛況をもって開催されました。今回は、次の4名の方々にご講演をお願いしました。

**講演1 吉田 充徳 氏 (H16院卒) (株)豊田自動織機  
「若手技術者の視点」**

**講演2 宮崎 寿子 氏 (H13院卒) 東レ (株)  
「会社紹介と現在の仕事紹介」**

**講演3 篠田 陽介 氏 (H8学部卒) 衆議院議員  
「科学技術立国の更なる繁栄のために」**

**講演4 仙石 武広 氏 (S61院卒) (株)デンソー  
「製造工場における技術者の仕事」**

参加学生の感想の一部をご紹介します。

○ 学生時代におこなってきた“自分の頭で原因を考え行動する”という点が、企業での仕事にも十分に生かされていると聞き、自分も学生時の研究をしっかりやっていかななくてはならないと、再認識できました。

○ 自分が企業に入ってから、自分に何が必要なのか、どのようなスタンスで望めばよいか、などがまとまっていた、とてもためになりました。

○ やはり日本は技術開発をしっかり行って、世界にアピールしていかななくてはならないことを感じました。

○ 女性の視点からみた企業の中身・立場について話をお聞きすることができ大変良かったです。

○ 企業に入ってから活動マップは他ではあまり聞いたことがない内容なので、非常に参考になりました。

講師の方々には、学生からの質問にも丁寧にお答え頂きました。詳細につきましては、巴会のホームページ(<http://www.mech.nitech.ac.jp/~tomoe/>)に掲載してありますのでご覧ください。これまでに度々要望がありました「女性の卒業生のお話が聞きたい」との声に応えるかたちで、本年度は女性の方1名からのご講演を頂きました。また、講演終了後、簡単ではありますが、講師の方々に参加学生との懇親の席を設けましたところ、非常に好評でした。来年度以降もこのように直接OBの方と会談できる場を設けるよう検討したいと考えております。

最後になりますが、今回講師をお引受け頂いた方々に深く感謝申し上げます。

(学生会担当:玉野真司,長山和亮)

### ＜学内人事異動＞

名古屋工業大学機械工学科、大学院機能工学専攻・都市循環システム工学専攻・機能工学専攻・情報工学専攻・産業戦略工学専攻の機械系分野において、つぎの人事異動がありました。

平成17年12月1日付

助教授 昇任

武居 直行

平成18年4月1日付

教授 昇任

田川 正人

平成18年3月31日付

退職

太田 安彦

平成17年5月1日付

助手 着任

佐藤 尚

平成18年4月1日付

教授 着任

堂田 邦明

助手 着任

荒田 純平

助手 着任

八木橋 信

助手 着任

水野 文雄

助手 着任

田中 由浩

### ＜ソフトボール大会＞

平成17年9月12日、さわやかな秋晴れのもとで巴会ソフトボール大会が千種グラウンドにて開催されました。計24チームが優勝を争い、激戦の末に大岩・石野研究室が優勝、準優勝は中村・糸魚川研、3位は松本研となりました。

(大岩・石野研：吉田)

### ＜卒業式＞

平成18年3月23日に卒業式が挙行され、学部機械工学科では第一部148名(昨年115名)および第二部25名(31名)が卒業証書を、大学院の機械系講座では94名(88名)が修了証書を、8名(2名)が学位記を手に入れました。なお平成17年9月30日修了・卒業者は大学院0名(0名)、第一部1名(3名)、第二部1名(0名)、平成18年3月31日卒業者は第一部9名(16名)、第二部6名(6名)でした。

学業成績が優秀な下記の機械工学科卒業生9名と機械系大学院博士前期課程修了者2名に対して各賞が贈られました。

#### ○名古屋工業会賞3名

第一部 堀田 慎太郎, 津田 和弥

第二部 中村 大輔

#### ○日本機械学会 畠山賞3名

第一部 松岡 弘晃, 山本 弘

第二部 牧野 克明

#### ○巴会賞3名

第一部 山中 政典, 佐波 幹隆

第二部 奥村 能暢

## ○ 日本機械学会 三浦賞

博士前期課程 棚垣 貴文, 若槻 哲平

## ＜平成 17 年度卒業生・修了者一覧＞

以下に示すのは、機械工学科卒業生および機械工学科関係の大学院修了者です。

## ■ 大学院 博士後期課程 修了者 (8 名)

池俣 吉人, 吳 新, David Paulo, 野老山 貴行, MOHAFIQU, 山北 龍児, 吉村 宏, 呂中 杰

## ■ 大学院 博士前期課程 修了者 (94 名)

浅原 恵太	小澤 敦	柴 和重	寺本 啓祐	平井 尚	山本 智哉
安達 元輝	貝吹 和秀	沙 婷	富田 顕徳	深見 尚男	山本 真規
渥美 佳則	加藤 雄貴	杉山 喬彦	富永 淳	福田 信二	吉田 崇
池田 勇介	川口 裕史	鈴木 孝幸	内藤 信行	星崎 健一	吉元 勝
石黒 文彦	川口 喜生	高須 誠	長尾 将弘	堀田 孟宏	吉本 芳幸
泉谷 駿	川本 光真	高橋 志有	中川 秀幸	本田 直子	李 松
伊藤 慎吾	岸本 裕幸	滝音 淳	中島 啓之	前田 賢志	若槻 哲平
稲川 治	久保川 裕一郎	田窪 晃一	中野 裕之	松本 裕司	和家 史和
井上 大喜郎	黒田 なおみ	竹内 大輔	長野 陽平	松本 和剛	渡辺 洋祐
今村 秋吉	河野 武士	立川 博司	長松 孝行	馬原 功次	
岩坪 和英	小島 芳史	田中 豪	中村 正也	水野 大樹	
梅田 真弥	後藤 博隆	田中 祐輔	中村 文彦	三成 雅子	
王 偉明	小林 直人	棚垣 貴光	夏秋 力也	村上 智矢	
大田 憲司	米野 中央人	谷口 雅洋	西野 光祐	山口 朋昭	
大脇 雅友	酒井 康隆	津川 昭	畑中 茂樹	山崎 慎介	
奥田 悠一郎	佐藤 孝志	出水 康仁	林 雅典	山田 昌広	
奥村 将也	佐藤 真吾	寺野 元規	伴 博之	山本 隆弘	

## ■ 学部 第一部 卒業生 (158 名)

伴 佳典	大島 久治	坂崎 慎哉	竹内 慧	平野 宏明	山本 拓
青木 誠治	太田 健太郎	坂森 悠樹	竹中 大志	平松 薫	山本 雅之
赤塚 祐司	大野 拓矢	佐々江 宏一	立花 克之	廣田 勇	山本 康則
赤堀 満	大宮 健司	笹川 哲	立松 昌朗	藤井 英治	山本 裕加
秋田 健次	大屋 雄司	佐藤 由隆	田中 宏明	藤井 一貴	游 洪正
浅井 信一郎	岡田 和彦	佐波 幹隆	田中 宏幸	堀田 慎太郎	横井 悟
麻生 要	岡田 邦彦	志津 慶明	田中 勇弥	前田 清司	横井 佑季
浅田 浩崇	岡田 純一	柴田 恭志	辻 琢矢	益満 孝久	横江 麻美
天野 賢治	岡田 康宏	島津 達哉	津田 和弥	松岡 弘晃	横田 雅人
荒谷 一茂	小川 卓也	志水 孝行	津田 基成	松下 徹也	我山 香織
安藤 佳洋	小川 久嗣	下坂 京平	出口 翼	松本 晃長	脇本 祐貴
石川 泰輔	小木 曾武	下村 紘志	寺山 雄介	宮崎 靖子	和田 啓太
石黒 真衣	角田 裕治	庄田 督	栃木 美乃	三輪 和宏	渡辺 聡史
石田 明	片山 彰	白井 中庸	百々 雄介	村瀬 友宏	
石原 太一	金岡 潤	神藤 弘章	戸松 高基	本村 直樹	
市川 勝久	神谷 恭平	杉浦 誉規	中斉 真	森 政樹	
市来崎 康徳	川北 恵梨	竹内 啓晃	永野 晋也	守田 晃児	
伊藤 哲也	川口 悟司	安藤 順一郎	中村 貴則	森田 崇裕	
伊藤 洋一	岸 悟志	上岡 幹優	中山 勇司	八木 啓介	
稲垣 貴文	北島 聖子	王 懐鵬	夏目 潤一	安原 潔志	
今村 賢太	北嶋 裕之	金岡 潤	西尾 和也	山上 洋介	
岩城 亮平	木村 肇	近藤 康功	西橋 重明	山下 智子	
岩沙 好実	久保 千晃	翟 春燕	野瀬 康仁	山下 親大	
上田 結介	小坂 来造	角田 憲哉	野村 達朗	山田 卓弥	
鶴飼 利光	小島 隼人	陶山 光宣	長谷川 貴史	山田 智哉	
白井 淳	後藤 直人	昔農 仁史	服部 正之	山田 祥郎	
梅田 佳代子	小林 雄	高橋 智生	早川 政志	山中 政典	
大岡 誠	権田 信吾	高橋 慶彦	原田 隆大	山本 篤徳	
大熊 陽介	酒井 宏明	田口 稔邦	春澤 翔	山本 公弘	

## ■ 学部 第二部 卒業者 (32名)

藤田 慎治	岡田 達也	小林 久朗	高橋 広基	萩野 雄也	水野 一樹
市原 良紀	奥村 能暢	坂本 憲宏	田口 利典	橋本 敦	湧川 大
伊藤 隆正	倉本 善光	清水 照之	長嶋 秀直	服部 翼	
稲垣 賢次	桑原 愛介	須貝 洋介	中村 大輔	堀 純也	
太田 剛	古賀 浩和	杉浦 裕記	西出 広孝	牧野 克明	
大塚 丈陽	越野 博記	杣田 健一	芳賀 由人	松島 浩之	

## &lt;平成 17 年度進路・就職先一覧&gt;

以下に示すのは、機械工学科卒業者および大学院機能工学専攻・都市循環システム工学専攻・情報工学専攻修了者（機械工学科関係分）の進路・就職先です。

## ■ 大学院 博士課程 修了者 進路・就職先

愛三工業(株)	ソニーイーエムシーエス(株)	(株)トヨタ中央研究所	(株)村田製作所
アイシンA I(株)	ダイキン工業(株)	名古屋鉄道(株)	矢崎総業(株)
アイシンAW(株)	大同特殊鋼(株)	ナブテスコ(株)	(株)山岡製作所
アイシン精機(株)	大同メタル工業(株)	日本軽金属(株)	ユニバーサル造船(株)
石川島播磨重工業(株)	ダイハツ工業(株)	日本車輛製造(株)	(株)リクルートスタッフィング(テクノスタッフフィン
石塚硝子(株)	月島機械(株)	日本ミシュランタイヤ(株)	グ Div.)
イビデン(株)	(株)デンソー	日立ホーム・アンド・ライフ・ソリューション(株)	リコーエレメックス(株)
エーザイ(株)	(株)デンソーウェーブ	ファナック(株)	YKK AP(株)
オークマ(株)	豊田合成(株)	富士ゼロックス(株)	(株)ワイ・イー・シー
オリンパスメディカルシステムズ(株)	(株)トヨタコミュニケーションシステム	フジノン(株)	北京理工大学
(株)片岡機械製作所	トヨタ自動車(株)	ブラザー工業(株)	名古屋工業大学大学院
川崎重工業(株)	トヨタ車体(株)	三井造船(株)	名古屋大学大学院
京セラ(株)	(株)豊田自動織機	三菱重工業(株)	
(株)シーイーシー		三菱電機メカトロニクス	
新日本製鐵(株)		ソフトウェア(株)	
スズキ(株)			

## ■ 学部 第一部 卒業者 進路・就職先

愛三工業(株)	三洋機工(株)	トヨタ自動車(株)	三菱電機(株)
アイシンAW(株)	(株)JTEKT	トヨタ車体(株)	(株)明電舎
アイシン・エンジニアリング(株)	(株)ショーワ	(株)豊田自動織機	(株)森精機製作所
アイシン精機(株)	スズキ(株)	トヨタテクニカルディベ	ヤマザキマザック(株)
愛知機器(株)	住友電装(株)	ロップメント(株)	ヤマハ発動機(株)
アスモ(株)	(株)ダイフク	(株)トヨタテクノサービス	リコーエレメックス(株)
アンデン(株)	(株)高橋製作所	トヨタ紡織(株)	リンナイ(株)
出光興産(株)	中部管区警察局	日生	(株)ワイ・イー・シー
(株)F.C.C	中部電力(株)	日本ガイシ(株)	九州大学大学院
(株)V S N	椿本興業(株)	パロマ工業(株)	名古屋工業大学大学院
(株)エイ・ダブリュ・エンジニアリング	(株)ティービーハイテック	富士機工(株)	名古屋工業大学大学院
(株)川本製作所	(株)デンソー	本田技研工業(株)	名古屋工業大学大学院
小島プレス工業(株)	デンソーテクノ(株)	(株)マツダ E&T	
	東海理化(株)	三菱自動車エンジニア	
	豊田合成(株)	リング(株)	

## ■ 学部 第二部 卒業者 進路・就職先

アイシン高丘(株)	(株)三五	豊田合成(株)	名古屋工業大学大学院
アンデン(株)	サンスター技研(株)	トヨタ紡織(株)	
(株)エイ・ダブリュ・エンジニアリング	(株)藤商事	日本アクロス(株)	
(株)エヌエスシー	大同メタル工業(株)	本田技研工業(株)	
岡地(株)	(株)中央図研	葉糧開発(株)	
	東洋ゴム工業(株)	(株)ユーストア	



## ～ Voice of students

## 「学会発表を通して」

大岩・石野研究室 修士 2 年 寺本 啓祐

私は、2005 年 7 月に巴会から院生学会出席補助を受けて、室蘭工業大学で行われた日本機械学会の第 15 回環境工学総合シンポジウム 2005 において「環状火炎バーナによって形成された高温酸化性雰囲気における PET 樹脂粉末の燃焼特性」と題して研究発表を行ってきました。

この研究は、近年回収量が飛躍的に増加している PET ボトルのリサイクル技術の一環として行われており、現在、PET ボトルのリサイクル技術に関しては、あらゆる面から研究がなされ、その結果、大きく 3 つに分類されています。一つ目は廃棄 PET ボトルを繊維などにリサイクルするマテリアルリサイクル、二つ目は廃棄 PET ボトルを化学的に分解し、再度 PET ボトルにするケミカルリサイクル、そして、三つ目は廃棄 PET ボトルを燃料として燃焼させることによって発生する熱エネルギーを有効利用するサーマルリサイクルです。私の研究は、三つ目のサーマルリサイクルに含まれます。具体的には、まず廃棄 PET ボトルを粉砕させることによって得られる PET 粉末を補助燃料として使用し、この PET 粉末を効率良く燃焼させることを目的とした環状火炎バーナを設計・開発を行いました。そして、この環状火炎バーナを用いて、様々な条件で燃焼実験を行うことによって、PET 粉末を効率良く燃焼させることができる最適条件について検討しました。今回の学会では、この最適条件に関する発表をさせていただきました。

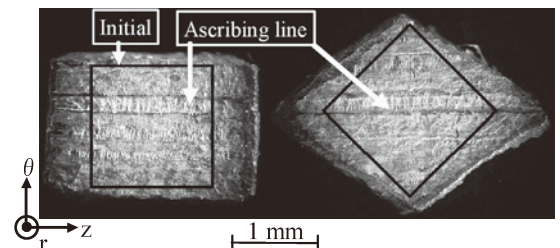
この学会は環境工学に関する学会だったので、燃焼工学以外の分野を専門とする研究者の方や企業の方も参加されていました。そういった方々に分野や業界を超えた様々な視点から質問をいただき、新たな視点から自分の研究について考え直す良い機会になったのではないかと感じました。また、他の講演者の様々な考え方を聞くことが出来たので、大変興味深いものになりました。

これからも、この院生学会出席補助制度を継続していただき、多くの学生に学会発表を経験してもらいたいと思っています。

## 「研究発表」

成形加工研究室 修士 2 年 寺野 元規

プレス加工や鍛造などの塑性加工では高精度・ネットシェイプ・工程短縮などが進んでいます。これらを達成するには、無理なく上手に材料流動させるのが大切です。この材料流動は主に応力的な境界条件、幾何学的な境界条件、材料特性によって決まります。私は材料特性の中でも特に塑性異方性について取り組んでいます。今は押出棒・管材から切出した一辺 1 mm の立方体を圧縮する実験をしています。学部で習ったような等方性材料では、初期の正方形断面は圧縮後も正方形のままです。しかし長方形やひし形になる材料も出てきました(下図)。



2005 年 11 月に沖縄で行われた第 56 回塑性加工連合講演会で発表の機会を得ました。発表は 2 度目ということもあり、それほど緊張せずに発表できました。ただ英語で発表するセッションでしたので、準備にはかなり時間がかかりました。日本語のように容易ではありませんでしたが、先生や同研究室生に何度もアドバイスをもらい、練習する内にだんだん自分の物になってきました。当日の発表では会場からも多くの質問やアドバイスを頂きました。何よりの収穫は今後考えなければならない課題がはっきりしたことです。学会は 3 日間あり、他の人の発表も数多く聞くことができました。それにより、自分の研究で欠けているところにも気づきました。企業の人の発表も多く、現在問題になっていることや、問題をどのように解決してきたのかもつかめました。

2 回の学会発表を通して、自分自身が成長したことを実感しています。この経験を今後生かしていきたいと思っています。

## ROAD TO DREAM !!

名古屋工業大学工学部付属ものづくりテクノセンター Formula JSAE プロジェクト

## 大学講義とは違う実践形式の教育プロジェクト

当プロジェクトは、机上の講義形式の授業では得られない”ものづくり”を学生が実際に体験することで、社会に出て通用する若手エンジニアを育成する教育プログラムの一環として4年前に設立しました。

「全日本学生フォーミュラ大会」に出場するために、学生自ら車両の設計、製作だけでなく、会計管理、資金調達、渉外スポンサー活動を初めとした運営マネジメントも学生の力のみで行っております。

昨年九月に行なわれた大会では、耐久走行途中リタイヤという、不本意な結果で終わってしまい、今年は完走、そして優勝を目指してメンバー全員、高いモチベーションを維持しつつ活動を行っております。現在は設計が終了し、試作機の製作に入ったところです。

また、当プロジェクトではスポンサー様を募集しております。もし、ご興味をお持ちの方は右の連絡先までご連絡下さい。



猪股 祐介(イノマタ ユウスケ)

リーダー: I 部電気情報工学科 3 年

Tel : 090-1823-9609

Mail: pc\_inono@yahoo.co.jp

http://www.qitc.nitech.ac.jp/formula/

## 「巴会 2003 年度版名簿」の発行について

巴会では、2003 年(平成 15 年)12 月に会員名簿を刊行いたしました。

今回の名簿発行に際しては、協賛広告を募集せず、発行に必要な費用には、巴会の会費と名簿の販売収入をあてることになっております。

つきましては、名簿のご購入について格別のご配慮をお願い申し上げます。

価格は、一冊 3000 円(送料含む)です。

「巴会」では、会員各位の個人情報保護には従来から最大限の注意を払ってきております。

また、会員情報利用の目的、情報管理の具体的な方法などを明記した「会員情報の取り扱いに関するガイドライン」の策定も合わせて進めてまいります。

名簿に関するお問い合わせは以下にお願い致します。

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町  
名古屋工業大学 機械工学科 巴会  
(しくみ領域) 古谷 正広

TEL : 052-735-5355

電子メール: furutani.masahiro@nitech.ac.jp

## &lt;予告&gt; 平成 18 年度 巴会理事会・総会 議題資料

## (1) 平成 18 年度役員名簿(案)

会 長: 塩見 正直 (トヨタ車体技監)

副会長: 学外・尾針 幸夫(S45)

学内・長野 靖尚(教員)

理 事: 張田 吉昭 (S43 関東支部長)

福竹 泰彦 (S43 関西支部長)

稲田 雅己(S39) 小林 明彦(S40) 小河 保(S43)

川崎 治憲(S45) 今村 陽是(S48) 大西 一(S49)

新美 重秋(S50) 尾関 良重(S56) 伊藤 克彦(S57)

仙石 武広(S59) 富田 庸公(H01) 大島 成通(H02)

田川 正人 松本 健郎 渡辺 義晃 北村 憲彦

坂口 正道 土田 陽一 古谷 正広 菊植 亮

長山 和亮 成田 浩久 保浦 知也 (以上教員)

監 事: 近藤 邦治(S45) 藤本 英雄(教員)

名誉会長: 下山 謙一

最高顧問: 山田 豊

特別顧問: 金原 淑郎

顧 問:

小出 謙(S16) 西坂 誠三(S16) 岩月 央(S19)

中谷 宗三郎(S20) 佐藤 真吉(S22) 船橋 鉦一(S28)

山中 由男(S29) 石川 宏(S30) 大河内 禎一(S31)

木村 金治(S35) 成田 政敏(S35) 江崎 俊夫(S38)

## (2) 平成 17 年度事業報告(案) および平成 18 年度事業計画(案)

	平成 17 年度事業報告	平成 18 年度事業計画
会報	「ともえ」No.39 発行 H17.5	「ともえ」No.40 発行 H18.5
総会	名古屋工業大学 3 号館 2 階 M3 会議室 H17.6.18	名古屋工業大学 3 号館 2 階 M3 会議室 H18.6.17
講演会	名古屋工業大学 3 号館 2 階 M3 会議室 H17.6.18 講演者 名古屋工業大学大学院 産業戦略工学専攻長 機械工学科 中村 隆 教授	名古屋工業大学 3 号館 2 階 M3 講義室 H18.6.17 講演者 三菱重工業 名古屋航空宇宙システム製作所 宇宙機器技術部 顧問 小林 実 様 (三菱エンジニアリング(株) 大江事業所)

総会 付随行事	(1) 研究室開放. 大岩・石野研究室, 流体力学グループ研究室(伊藤教授) (2) フォーマルカー製作の紹介(学生)	(1) 研究室開放 古谷研究室, 松本研究室 (2) フォーマルカー製作の紹介(学生)
懇親会	名古屋工業大学 学生会館3階集会室 H17. 6. 18	名古屋工業大学 学生会館3階集会室 H18. 6. 17
支部	(1) 関西支部総会・懇親会 H17. 7. 30 (2) 関東支部秋の集い H17. 11. 10	(1) 関西支部総会・懇親会 (2) 関東支部秋の集い
学内事業	(1) ソフトボール大会 H17. 9. 12 (2) OBは語る会 H17. 11. 2 (3) 工場見学会補助 H18. 1. 11 (4) 巴会賞授与式および卒業記念パーティー H18. 3. 23 (5) 院生学会出席補助(24件) (6) フォーマルカー製作補助	(1) ソフトボール大会 (2) OBは語る会 (3) 工場見学会補助 (4) 巴会賞授与式および卒業記念パーティー (5) 院生学会出席補助 (6) フォーマルカー製作補助
100周年 事業関連 会議	募金活動支援(会報「ともえ」増刊号発行) 理事会(4回)	募金活動支援 理事会

## (3) 平成17年度 会計報告案(2005. 4. 1~2006. 3. 31)

## (4) 平成18年度 予算案(2006. 4. 1~2007. 3. 31)

## 【一般会計】

収 入		支 出	
前年度繰越金	3,885	会報発行発送費	958,323
クラス会費	303,310	支部補助	300,000
終身会費	1,848,320	総会/講演/懇親会	273,544
(卒業生9名)	(178,320)	学内事業補助	798,064
(在学生167名)	(1,670,000)	名簿整備費	248,359
総会懇親会参加費	175,000	会議費	245,312
		事務通信費	
受取利息	3	(支部通信費含む)	161,013
基金会計から補助	354,097	雑費	0
クラス会費前納 (紫友会)	300,000		
合計	2,984,615	合計	2,984,615

## 【奨学会計】

収 入		支 出	
前年度繰越金	2,082,806	巴会賞	49,140
受取利息	18	次年度へ繰越	2,093,684
基金会計から補助	60,000		
合計	2,142,824	合計	2,142,824

## 【基金会計】

収 入		支 出	
前年度繰越金	19,812,448	奨学会計へ補助	60,000
受取利息	4,914	一般会計へ補助	354,097
		次年度へ繰越	19,403,265
合計	19,817,362	合計	19,817,362

## 【名簿会計】

収 入		支 出	
前年度繰越金	241,860	名簿発送費	680
受取利息	0	雑費	
名簿販売収入	12,000	予備費	
		次年度へ繰越	253,180
合計	253,860	合計	253,860

## 【100周年事業会計】

収 入		支 出	
名古屋工業会からの補助	915,600	会報増刊号発行	776,202
		次年度へ繰越	139,398
合計	915,600	合計	915,600

## 【一般会計】

収 入		支 出	
クラス会費	250,000	会報発行発送費	1,000,000
終身会費	1,200,000	支部補助	250,000
(卒業生10名)	(200,000)	総会/講演/懇親会	250,000
(在学生100名)	(1,000,000)	学内事業補助	750,000
総会懇親会参加費	200,000	名簿整備費	100,000
受取利息	10	会議費	200,000
		事務通信費	
基金会計から補助	1,099,990	(支部通信費含む)	150,000
		雑費	50,000
合計	2,750,000	合計	2,750,000

## 【奨学会計】

収 入		支 出	
前年度繰越金	2,093,684	巴会賞	60,000
受取利息	20	次年度へ繰越	2,093,704
基金会計から補助	60,000		
合計	2,153,704	合計	2,153,704

## 【基金会計】

収 入		支 出	
前年度繰越金	19,403,265	奨学会計へ補助	60,000
受取利息	5,000	一般会計へ補助	1,099,990
		次年度へ繰越	18,248,275
合計	19,408,265	合計	19,408,265

## 【名簿会計】

収 入		支 出	
前年度繰越金	253,180	名簿発送費	3,400
受取利息	1	次年度へ繰越	279,781
名簿販売収入	30,000		
合計	283,181	合計	283,181

## 【100周年事業会計】

収 入		支 出	
前年度繰越金	139,398	募金支援活動費	639,399
名古屋工業会からの補助	500,000		
受取利息	1		
合計	639,399	合計	639,399

## 平成 18 年度巴会理事会・総会のご案内

日時：平成 18 年 6 月 17 日(土)

場所：名古屋工業大学 3 号館 2 階 M3 講義室

理事会・総会 14:00～14:50

講演会 15:00～16:00

演題：「H-IIA ロケットの信頼性と民営化」

講師：三菱重工業 名古屋航空宇宙システム製作所  
宇宙機器技術部 顧問 小林 実 様  
(中菱エンジニアリング(株) 大江事業所)

懇親会 16:10～(学生会館 3 階集会室にて)

会費：OB 5,000 円 学生 500 円 (懇親会に出席される方)

申込：クラス代表者へお申し込み下さい (当日受付可)。

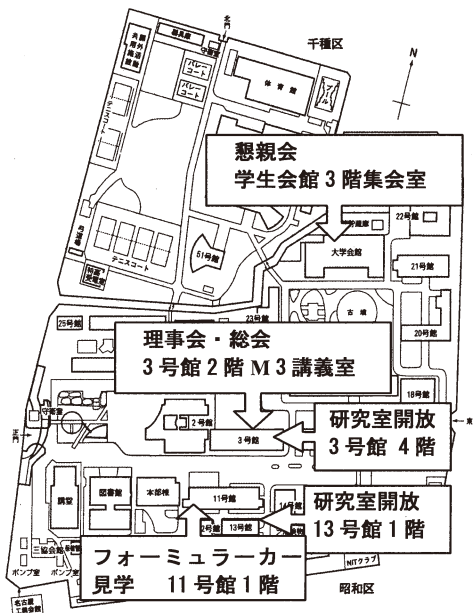
なお、S40 年以降卒業の方は直接巴会本部へハガキ  
または電子メールにて 6 月 6 日までにお申し込み下さい。

宛先：〒466-8555 名古屋工業大学ながれ領域 鬼頭修己

電話：052-735-5332 (直通)

E-mail：kitoh.osami@nitech.ac.jp

※当日は工大祭も開催されます。工大祭のため車両の入構は  
制限されますので、自家用車の乗り入れはご遠慮下さい。



巴会総会付随行事 [ 平成 18 年 6 月 17 日(土) ]

○研究室開放：12:30～13:00 (1 回目) , 13:00～13:30 (2 回目)

1. バイオメカニクス研究室 (担当：松本教授・長山助手) 3 号館 4 階 421 号室

内容「血管や皮膚，細胞の力学特性計測装置の紹介」

2. エネルギー変換機器研究室，(担当：古谷助教授) 13 号館 1 階

内容「下山先生が空襲の焼け跡から拾い上げたスターリングエンジンから予混合ディーゼル HCCI 機  
関までを紹介する」

○学生製作のフォーミュラーカーの見学：13:30～13:50 11 号館 1 階 107 室

学生が製作したフォーミュラーカーを見学 (プロジェクトリーダー 電気情報工学科 猪股祐介君)

### 会報「ともえ」がホームページでもご覧いただけます

巴会では、活動内容をホームページでご紹介いたしております。

掲載内容は、「行事計画」「活動報告」「会報」「学内報告」「巴会賞」「終身会員へのお勧め」等、多岐にわたって  
ております。

この中で、会報「ともえ」につきましてもバックナンバーを含め掲載いたしております。

巴会会員の皆様、是非ともホームページをご覧頂き、巴会の活動にご理解をいただきますと共に、今後とも絶  
大なるご支援を賜りますよう、よろしく願いいたします。

ホームページのアドレスは以下のとおりです。

<http://www.mech.nitech.ac.jp/~tomoe/index.html>